

(様式3)

自己評価及び外部評価結果

作成日 平成27年2月16日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	0871100228		
法人名	有限会社 豊玉		
事業所名	グループホーム さくらんぼ	ユニット名	1号館おもいで館
所在地	〒303-0041 茨城県常総市豊岡町乙3587		
自己評価作成日	平成26年7月17日	評価結果 市町村受理日	平成27年2月9日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報 リンク先URL	http://www.kaigokensaku.jp/08/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kihon=true&JigyosyoCd=0871100228-00&PrefCd=08&VersionCd=022
-----------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人茨城県社会福祉協議会		
所在地	〒310-8586 水戸市千波町1918番地 茨城県総合福祉会館内		
訪問調査日	平成26年9月12日	評価機関 決 済 日	平成27年1月26日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

<p>「安心・安全・穏やか」を常に考えて介護。職員同士が密な連携とって柔軟に対応。接遇を心得、笑顔で挨拶、言葉遣い等に配慮した介護を行っている。利用者様も職員も幸せになれる介護を目指している。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>事業所は利用者の安全を第一に考え、夜間想定避難訓練を独自に毎月実施している。職員はトランシーバーを携帯し、利用者の要望に迅速に対応ができるよう工夫して支援をしている。</p> <p>管理者と職員は笑顔と優しさ、思いやりを持ちながら利用者本位の支援に努めている。代表者は毎日「所内情報誌さくらんぼ通信」を作成し、朝の申し送り時に配布して職員の意識の啓発に努めている。</p>

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「感謝・信頼・奉仕」の指針を共有し、「安心・安全・穏やか」に過ごせる時間の提供を全職員が心掛けている。	理念は代表者が作成し、「感謝・信頼・奉仕」を指針として利用者が「安全・安心・穏やかに」過ごせる時間の提供を心がけている。 職員は申し送り時や職員会議で理念を確認し、共有して実践に努めている。 現在の理念は職員心得を認識したものであり、地域密着型サービスの意義を踏まえたものとはなっていない。	利用者の視点から、代表者や管理者、職員が話し合っって地域密着型サービスの意義を踏まえた新しい理念を作成することを期待する。
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	絵手紙の会の方が絵手紙を持ってきてくださったり、近隣の方が自作の絵画を持って来てくださったりして、廊下に飾らせていただいで、交流を図ったりなどしている。	事業所に絵手紙ボランティア「菜の花」が来訪したり、代表者の友人で絵画を楽しむ人々に、絵画を展示する場として居間兼食堂や廊下の壁面を提供しており、制作者が来訪して利用者と交流してるほか、近隣の小学生の介護体験実習を受け入れたり、事業所が毎週実施している「脳トレーニング教室」には利用者と一緒に地域の高齢者が参加するなど、日頃から地域住民と交流を図っている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	「脳トレ」の講座を開いていて近隣の方が参加して下さっている。継続して参加して下さっている方が多く、効果があると喜ばれている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議には市町村担当者、市のOBの方、民生委員の方など様々な情報をお持ちの方が来てくださっているので、貴重な意見をいただき、サービス向上に活かしている。	運営推進会議は家族等の代表や市担当者、民生委員、地域住民、職員等で2ヶ月に1回開催し、議事録を作成している。 事業所の運営状況を報告するとともに、行政担当者から27年度の介護保険法の改正や「マイナンバー制度」についての情報を得たり、外出などで人と関わり合うことの大切さの助言を得たりするなど、会議で出た意見等をサービスの質の向上に活かしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	家族が支援困難なケースなどを、市町村担当者に相談、助言や意見をもらうなど連携に努めている。	代表者と管理者は定期的に市役所に出向き、事業所のサービスの取組みや運営状況を伝えたり、要介護更新認定や生活保護を受給している利用者に関する相談をして助言を得るなど、些細なことでも相談ができる協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	行っている。安全が保障できない場合は、ご家族と相談している。	管理者と職員は身体拘束の弊害を理解しており、身体拘束の無い支援に努めているが、やむを得ず身体拘束を行う場合には家族等に書面で同意を得、経過観察記録や再検討記録に記載して検討している。 事業所は交通量の多い道路に面しているため、利用者の安全確保を優先し、家族等の同意を得て玄関を施錠している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	申し送りや職員の運営推進委員会会議で定期的に説明、話し合いを行い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員間の運営推進委員会会議で話し合う機会を作っていく予定。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱こころの声を設置して、意見や苦情を出しやすいようにしている。苦情は、申し送りや運営推進委員会会議で話し合っている。	重要事項説明書に事業所と第三者機関の苦情相談受付窓口を明記しているほか、玄関に意見箱を設置している。 利用者からは日々の会話の中で意見や要望を聴いたり、仕草から思いを推測したりしているほか、家族等からは電話や来訪時に意見や要望を聴くように努めている。 広く種々の意見や要望を聴くために家族会の結成や家族アンケートを実施するまでには至っていない。	家族等からの要望や意見を広く汲みあげるため、家族会の結成や無記名の家族アンケートを実施することを期待する。
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営推進委員会会議で話し合っている。普段でも気付いたこと、気になることなどあればいつでも管理者に声をかけてもらっている。代表者は個々の職員と気軽に雑談できる場を設けている（モンカフェ）。	代表者と管理者は月1回の職員会議で職員の意見や要望を聞いているほか、機会ある毎に職員の意見を聞くように努めている。 職員から「入浴介助の手順の見直し」や「洗濯機やガス台の買い替え」等の要望を受け、業務の改善を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員が楽に働けることを常に考えて、理解して、職場環境・条件の整備に努めている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	進めている。新入職員にはベテラン職員が同勤務等で指導を行っている。資格取得のため 社内で勉強会を行ったりしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	サービス事業者連絡会に参加している。営業活動や研修会等でネットワークづくりを行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期期間の一週間は、その入居者を良く知るために、専用のケース記録にして、細かく記入して関係づくりに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時にご家族と話し合いを十分に行っている。安心して生活してもらえるよう 利用者本人などの状況をお聞きしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	努めている。本人の状況、家族からの話、その他の情報などすべての状況を検討し、対応している。家族が支援できる外泊や外出などもできるよう話し合っている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	築いている。常に様子観察を欠かさず、今何をしたいか等を把握し、その方に合った役割なども準備している。		
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	築いている。家族との関わりを支援し、家族が支援できる外出や外泊などもできるように話し合っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	努めている。友人の面会がいつでもできるよう 玄関を開放している。	利用者の友人や近所の知人が訪れており、職員は居室でゆっくり話しが出来るように配慮をしている。 職員は利用者の希望にそって、家族等や友人に電話や葉書での連絡を手伝っているほか、家族等の協力を得て馴染みの美容院や外出に出かけたりしており、馴染みの場所や人との関係が途切れないよう支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	努めている。利用者同士のトラブルは職員が自然に入り支援している。席の配慮など。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	努めている。家族の要望を聞いて、出来ることは支援可能か検討して実施している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	努めている。職員みんなで連携して、本人の様子観察を行い、申し送りや運営推進委員会で検討している。	利用者の基本情報から生活歴や思いを把握するとともに、日々の暮らしの中では表情や会話から一人ひとりの思いを推し測り、新たに把握した利用者の思いや意向はケースノートに記載して職員で共有している。 意志疎通の困難な利用者の場合は、家族等からこれまでの生活歴を聞いたり、日々の表情や仕草から思いを汲み取るように努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	居宅の介護支援専門員に情報の提供をお願いしたり、毎月の利用料金支払い時などにご家族とお話して把握に努めている。知り得た情報はケース記録、日誌に反映して職員が把握できるようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	職員みんなで連携して本人の様子観察を行い、知り得た情報はケース記録、日誌に記入して現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、職員、その他関係者と話し合い、意見をまとめてケアプランに反映している。介護計画は状況が変わった利用者様を優先して、職員、管理者で協力して作成している。	介護計画は利用者や家族等から意見や要望を把握するとともに、介護支援経過記録を基に職員の意見を取り入れながら作成し、家族等に説明して同意を得ている。 介護計画は6ヶ月毎にモニタリングを実施し、長期目標と短期目標を設定して1年毎に見直している。 利用者の心身の状態に変化が生じた場合は、随時モニタリングを行い、介護計画を見直している。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケース記録、日誌、個別記録に記入し、共通認識し、ケアプランの見直しや実践に生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	取り組んでいる。利用者の体調の変化時など 家族と相談して、ホーム側でできる支援を行っている。（往診など）		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の畑や花畑、隣のデイサービス、外泊などを使って楽しめる支援をしている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医に電話で様子をお伝えするなどしながら支援している。	かかりつけ医への受診は家族等の付き添いが原則となっている。 家族等から受診結果の報告を受けているほか、職員は協力医療機関への定期的な受診を支援しており、電話等で家族等に受診結果を報告している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員が不在なためできていない。かかりつけ医の看護師等に相談するなどしている。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	努めている。かかりつけ医に折々様子を伝え、関係づくりを行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時 説明している。重度化など体調の変化があったときには、その都度家族等と話し合い、相談して支援に取り組んでいる。	重要事項説明書に看取りの方針を掲載し、「重度化した場合」の確認書で利用者や家族等に説明して書面で同意を得ている。 事業所は看取りを行う方針ではあるが、現在まで看取りの経験はない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	消防署の応急手当の講習をうけている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	申し送りの後などに避難訓練を行って、全職員が身につけている。近隣の消防署などと協力体制を築いている。	夜間想定を含め、年2回避難訓練を実施するとともに記録を残している。 事業所は独自に避難訓練を毎月実施し、全職員が避難するうえでの役割を確認している。 避難訓練には地域住民の協力体制が得られていないことと品名や数量、個数が記載された備蓄品一覧表を作成するまでには至っていない。	運営推進会議で地域住民の避難訓練参加への協力を依頼するとともに、品名や数量、賞味期限等を記載した備蓄品一覧表を作成して管理することを期待する。

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	行っている。人生の先輩として敬語を基本として対応している。	職員は利用者を人生の先輩として敬い、一人ひとりの人格を尊重して誇りやプライバシーを損ねない言葉遣いや対応に努めている。 利用者が排泄に失敗した場合にはさり気なく声をかけ、居室に誘導して着替えるなど、自尊心に配慮した支援を心がけている。 契約書などの個人情報に関する書類は、事務室の施錠ができる書棚に保管し、取り扱には十分留意をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	働きかけている。利用者様の表情や言葉を注意深く受け止めている。			
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	希望に沿って支援している。			
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	支援している。着替えをご自分で好きなものを選んでいただいたりしている。			

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	行っている。一人ひとりの力にあったお手伝い等をしていただいている。食事はとても楽しみな様子が伺える。	職員は利用者と一緒に同じ食事を摂り、会話をしながら楽しい雰囲気です。食事が出来るように努めている。 利用者は出来る範囲で配膳や下膳、お茶出し等の役割を担っている。 誕生会や母の日、敬老会などの行事ではお寿司や赤飯等を提供し、楽しんでもらえるよう工夫をしている。 利用者の状態に応じて刻み食やとろみ食を提供している。 事業所の庭で採れたいちじくやさくらんぼが季節毎に提供されている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	支援している。一人ひとりの状態を常に確認して支援している。	/	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	行っている。その方に合った対応をしている。	/	
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	行っている。服薬介助も含め、一人ひとりの状態に応じた声掛け誘導を行っている。	排泄チェック表を活用して利用者の排泄パターンを把握するとともに、一人ひとりのタイミングに合わせながらさり気なく声かけをしてトイレに誘導し、出来る限りトイレで排泄ができるように支援をしている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	取り組んでいる。一人ひとりの体調を確認し対応している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	個々に応じた入浴支援を目指しているが、曜日や時間の選択は困難な場合もある。	入浴は2日おきの午前中を基本としているが、時間の変更等の要望があれば出来るだけ要望にそって支援をしている。利用者の状態に応じて清拭等に変更して対応をしている。入浴を嫌がる利用者には無理強いせず、担当者や時間帯を変えて声かけを行い、気分がいい時に入浴が出来るよう支援をしている。柚子湯などで季節感を取り入れ、入浴を楽しめるよう支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	支援している。一人ひとり対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	病院の医師、看護師と連携して、薬の内容等確認、理解し、全職員が申し送りなどを通じて共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	支援している。一人ひとりの力に合った役割を持っていただくよう支援している。一人ひとりが楽しい時間が過ごせるよう支援している。		

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	支援に努めている。出かけられる支援は計画するが、利用者様の体調、状態によりなかなか実施できない。	運営推進会議の議事録から「外出をして人と関わることの重要性」を指摘されているが、事業所は「安全第一」の方針で、外出の機会が殆ど得られていない。利用者は家族等の協力を得て買い物や食事に出かけている。	四季折々を感じたり、人との交流が出来るような外出計画を立て、実行すること期待する。
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	支援している。希望に沿って電話する介助をしたり、はがきを用意したりしている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の行事のちょっとした物を飾ったりして、落ち着いて過ごせるよう工夫している。	居間兼食堂は室温が一定に保たれている。 田園風景が眺められる大きな窓があり、四季の移り変わりを感じながら過ごすことが出来る明るい空間になっている。 居間兼食堂にはソファが、玄関ホールには丸テーブルとイスが配置しており、利用者同士や職員、家族等、友人たちと会話を楽しめる場所となっている。	

☆この評価は、受審事業所が自主的なサービス改善を行う努力を支援するための評価であり、調査当日の事業所の状況や提出された書類に基づいて評価したものです。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにはソファを置いたり、テーブルといすも何か所かに離れておいてあるなど、皆様それぞれに過ごせるよう工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	工夫している。皆様なじみのものをおいている。	居室にはエアコンやベッド、整理箆笥、カーテンが備え付けられている。 利用者は使い慣れた寝具やテレビ、冷蔵庫などの電化製品、仏壇や家族の写真、縫いぐるみ、時計などの馴染みの物品を持ち込み、居心地よく暮らせる場所となっている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	工夫している。トイレの場所に矢印をつけたり、居室に目印をつけたりしている。		

V アウトカム項目		
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○ 1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3, 利用者の1/3くらいの 4, ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○ 1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3, たまにある 4, ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：36, 37)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○ 1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3, 家族の1/3くらいと 4, ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	1, ほぼ毎日のように ○ 2, 数日に1回程度ある 3, たまに 4, ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	1, 大いに増えている ○ 2, 少しずつ増えている 3, あまり増えていない 4, 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○ 1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3, 職員の1/3くらいが 4, ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3, 利用者の1/3くらいが 4, ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○ 1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3, 家族等の1/3くらいが 4, ほとんどいない

(様式4)

目 標 達 成 計 画

事業所名 グループホーム さくらんぼ

作成日 平成27年2月7日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目 標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	1	現在の理念は、職員心得を認識したものであり、地域密着型サービスの意義を踏まえたものとはなっていない。	地域密着型サービスの意義を踏まえた新しい理念の作成。	代表者、管理者、職員等による職員会議での話し合い。意義の確認。	6ヶ月
2	35	地域住民の避難訓練参加への協力が必要。備蓄品の必要性。	年に何度かは地域住民の方参加協力による避難訓練を実施する。 備蓄品一覧表を作成する。	運営推進会議の参加者の方などへの協力依頼。 備蓄品を置き、一覧表を作成して管理。	6ヶ月
3	10	家族等からの要望や意見を広く汲みあげる必要性。	家族会などの結成。	いろいろな場面で家族の意見を聞く。 無記名の家族アンケートの実施。	1年
4	49	外出の機会を増やす必要性。	体調やその方に応じた外出ができるようにする。	個々に体調や環境を検討し、外出の詳細方法を検討。	6ヶ月
5					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。